自由遊び（三）

ふじの譯

米國東テキサス州師範大學の練習學校長ビツケツト・同大學幼稚園長デニヲルデイ、ボーレン著幼兒教育の或部分を譯したのである。吾々幼稚園關係者小學校初學年教師の參考となることが甚だ多いと思はれるから特に本誌に掲載する。

時々子供は、經驗を豐富にしたり、又は想像や思考を組織立てたりする上に、大變に役に立つところのドラマテツクな遊びをいたします。或朝四人の子供は積木でもつて大きい船を拵へました。一人の子は船長になり他の三人は水夫になりました。船長は他の所（幼稚園内の）に遊んでゐる自分の妻や子供等に別れを告げ、それから自分の船に乘り込み、手を振つたり、別れの叫びをあげたりして出帆いたしました。航海が終へて陸に近づいた時、家で留守居をしてゐた小さい子供は、貨物列車を出して來てそれに一杯兵隊さんを詰め込みレールの上をひつぱつて波止場まで連れて行きました。船が岸に着いた時兵隊さん達は船の中には入つて行きました。船長の妻はこの騷動や混雜を聞きつけて子供達に、こう云ひました。「子供達……今日お父さんがお歸りになるだらうよ、汽笛がきこえるから。」

一人の女の子が「私のお誕生日の遊びをしませう。メリーゼーンは私のお母さんよ」と云ひましたので、再び子供達の興味が變りました。

今度はみんな一致してお誕生會のいろ〳〵な計畫を立てました。積木はバースデーケークとして使はれ、ケークの上には六本の積木が、ローソク代りにさし込まれました。二人の女の子はロッキングボードの汽車に乘つてお誕生會に來ました。宴會が濟んだ時、お母さんは二人のお客樣にお皿洗ひを手傳つて下さいと云ひました所が二人は「えゝ、私達はあなたお客樣よ」

と答へて利口にもその仕事を避けました。

自由時間の時に遊ばれる遊びの中には、組織立てられた遊びも無いわけではありませんが大部分は、自由な、單なる快樂の爲に遊ばれる所の、組織立てられない遊でございます。これ位の年齢の子供に、規則的に一致しなければ出來ない樣な遊びをさせやうとするのは少し無理でございます。歌ふ遊びとか又はの Jacks の樣な遊び、追ひかけつこの遊び、等は大變に子供の好く遊びであります。

最初の二三週間と云ふものは、子供達は明かに個人的であります。併し自由遊びのとき、おまゝごとをしたり、家を建てたり、牛乳を攪きまぜたり、積木で汽車を拵へたり家具を作つたり、暖爐の廻りで縫物をしたりしてゐる中に何時の間にかこの個人的傾向が消えてしまふのでございます。自由遊びはこの爲にほんとに良い時であります。

こんな幼ない時期に於てさへも、自分が指導者とならう、との傾向はかなり著しく目につくものでございます。或グループでは、或る子供はいつも問題を提供し、他の子供はそれを解決しようとして協力して手傳つてゐました。斯樣にして彼等は社會交渉の Give and Take を學ぶのでございます。最初は或るグループの遊びに、他のグループの子供がは入つたりするときつと怒られ、果ては喧嘩にさへなつてしまふのでございますが自由遊びの時、みんなでいろ〳〵の事をしたりするので段々とこんな事が少くなつてまゐります。或朝、ドロシーとゼーンの二人の女の兒（この人達はよく喧嘩する人として知られてゐた）が家を建てゝゐました。ゼーンが材料を集めに出て行つてる間に、ジュリアンと云ふ子供がこの遊びに加はりました。ゼーンが歸つて來た時、ドロシーはゼーンを呼び出してこう云ひました。「ごらんなさい、ジュリアンはこんな事をしましたよ」と。ゼーンは之を聞いて危くジュリアンを打たうとしました。けれども彼等は、ジュリアンは自分に手傳つたのだと云ふ事を知りましたのでこう云ひました「彼は私達に手傳つてくれたのネ、隨分助かつたわ。」彼女は自己統御と協力と云ふことを學びました。又彼はグループ内の人達はお互に助け合はねばならない、と云ふことや、又各々のグループ同志は互に助け合はねばならないものであると云ふ事を學びました。

自由遊びの時に、子供達は一緒にゲームをしたり又お互に玩具を分け合つたりするので、段々と社會に適應する力を增して來ました。入園當時は、例へばルイズがお人形でもつて遊んでゐると、マーガレ

ットもお人形でもつて遊びたがり、きつと先生の所へ行つて「私もルイズさんの樣なお人形が欲しい。ルイズさんに私にも借して下さる樣に云つて下さい」

と不平を云ふでせう。マーガレットは、ルイズがお人形で遊んでゐる時には何かお人形でない他のもので遊ばなければならない、と云ふ事を、諭されなければなりません。

初めの頃は、多くの子供は、同時に、同じ玩具を欲しがる樣でございます。彼等は初めのうちは、玩具についてはほんとうに我儘で獨占しよう、獨占しようとしてゐます。誰かゞ或る玩具をいじつて遊んでゐる時に、他の子供がそれに觸つたり、又はその玩具の使ひ方等について何かする樣な事でも云ふと其子は大變嫌がります。けれども段々と馴れるにつれてお互に玩具を分け合つたり、又數人一緒に同じ玩具で遊ぶ樣になつてまゐります。或る子供はゴム毯で遊ぶ事が大變好きなので、おはいりの時にはきつと、誰も知らないところへ、かくしてしまひます。そして、自分のお仕事がすんだら又いつでもそれでもつて遊ばうと思つて隱すのです。でもこんな事をすると、以後は毯を借しては貰へませんので、おしまひには遂々、隱さない樣になりました。

ロッキングボードがお室に持つて來られると指が直ぐその上に乘りたがりますが、その上には一時に四五人きり乘れないのです。彼等は他人の權利と認めてお互にゆづり合ひました。そして先生から敎はらずに汽車等として、ひきまわして遊んで居る中に段々とそれをいじる事が、上手になつてまゐりまし

た。この汽車には、ステーションの名を呼ぶ案内者が乘つてゐます。汽車が各兒のステーションに着くと、案内者は降りて、今度は他の子供が乘るのです。こんな風にして誰でもが乘れる樣にするのです。時々、彼等はごた〳〵した問題を惹き起します。例へば或る子供が自分のステーションの名を呼ばれた時に自分はこの驛で下車するのではなくてもつと遠くのダーラスまで行くのです。等と云ひ張ります。ダーラスに着くと一寸だけ下車して又再び乘ります。之に對して他の子供達が反對でもすると、彼は、乘り換へ樣としてゐるのだと申します。子供等が之に對して何とも云はない時には、彼は許されたので、尙ほも乘りつゞけるといふ樣な場合にごた〳〵した問題が起るのです。併し斯樣な事は、ほんの例外でいろ〳〵經驗の積むにつれて、面白い事は誰でもしたいものであるから、みんな平等にしなければならないと云ふ事を學ぶ樣になります。（未完）